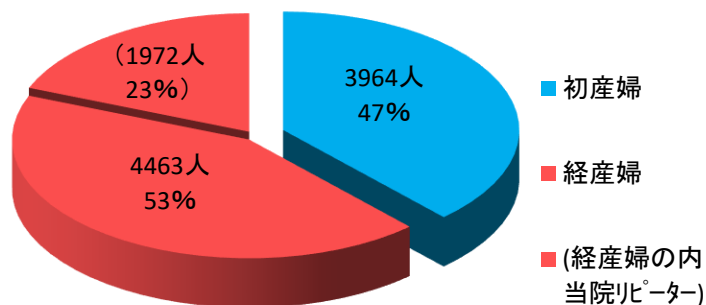


当院における分娩統計

2023.1

2000年(平成11年)11月の開院以来、2022年(令和4年)12月までの約21年間の間に**8427名**の赤ちゃんがお生まれになりました。今回はこれを総括し見直し皆様にご報告させていただくとともに、私どもの今後の診療指標としても活用してゆきたいと考えております。
ご来院いただいた多くの患者様には、心より感謝申し上げますとともにお子様の健やかなる成長をスタッフ一同願っております。

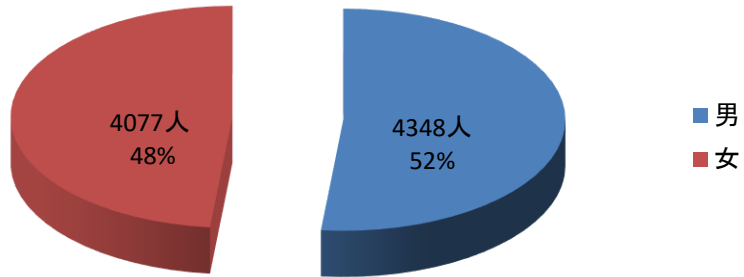
①初産婦と経産婦の比率(8427名)



1. 初産婦さんの経産婦さんの内訳

総数8427名の出産のうち、初産婦さんは**3964名(47%)** 経産婦さんは**4463名(53%)**と少し経産婦さんの方が多めでした。
前回は当院でお産をされているリピーターの方は**1972名(総数の23%、経産婦さんの49%)**となりました。
その中には、当院で5名のお子さんすべてを出産された方もいらっしゃいました。また、4回とも当院で帝王切開での出産をされた方もいらっしゃいました。
このように、繰り返しお越しいただけることは誠にありがたいことで、お互いの関係も密になりスムーズなお産や育児スタートに寄与したものと思われまます。

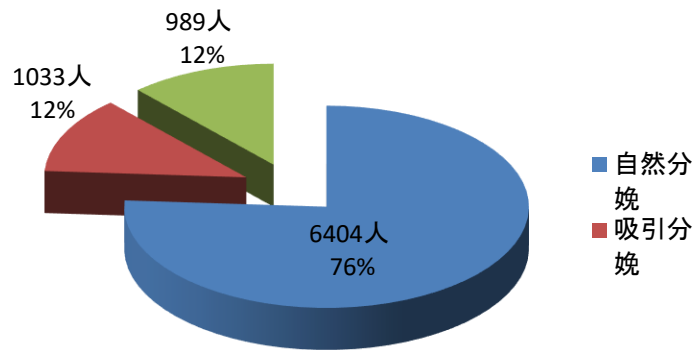
②出生児の性別(8427名)



2.出生時の性別について

4348名(52%)が男児、4077名(48%)が女児でした。昨年
の全国統計をみても、男児:女児は52%:48%でしたので平均的割合といえると思います。最近では、性別を産み分ける希望をされる方も増えていますが、環境因子やさまざまな要因が性別に影響を及ぼす可能性があるものと思われます。

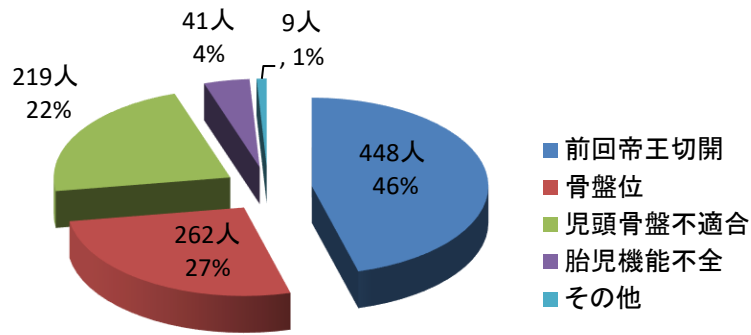
③分娩様式(8427名)



3.分娩様式について

自然分娩(経膈分娩)で出産された方が6404名(76%)をしめています。骨盤位(逆子)や前回帝王切開分娩をされているなどの理由で帝王切開で出産された方989名(12%)でした。微弱陣痛などのために胎児が出てこれない場合や胎児の状態が不安定なために分娩を急がないと危険なために吸引分娩を選択した方が1033名(12%)ありました。2022年の1年間をみれば335件の分娩があり、その内自然分娩が224名67%、帝王切開が41名12%吸引分娩が70名21%でした。無痛分娩の増加に伴って吸引分娩が増加する傾向にありますが、詳細は無痛分娩の項を御覧下さい。

④帝王切開となった理由 (979件)

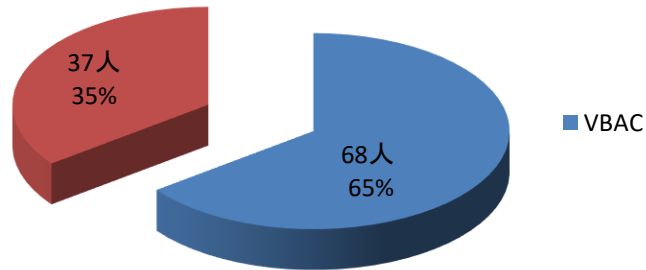


4.帝王切開となった理由

帝王切開総数979件の内、前回帝王切開をうけておられる方が**448件(46%)**と最も多くを占めています。これには、後にお示しするVBAC(帝王切開後の経膈分娩)が不成功に終わった389件も含まれております。次に多いのは、骨盤位(逆子)が**262件(27%)**を占めています。その他、児頭骨盤不適合(骨盤が狭くお産が困難な場合)で**219件(22%)**、胎児機能不全(お産の際に赤ちゃんの状態が不安定になることです)での帝王切開が**41件(4%)**ありました。

最近では、出産に関しては安全性がもっとも重視されるあまりに帝王切開率が上昇しております。VBACの適応が変わり、前回帝王切開の方は、次の出産時も帝王切開になる方が増えた為、当院でも帝王切開率は増えております。手術の必要性を正確に判断することは非常に重要でありますし、その選択も時によっては一刻を争うような場合もございます。そのような中でも、当院では妊娠分娩管理の充実により帝王切開率を少しでも下げれるよう努力して参りました。今後も当院での重要課題のひとつとして取り組んでいきたいと考えております。

⑤VBAC(105名)



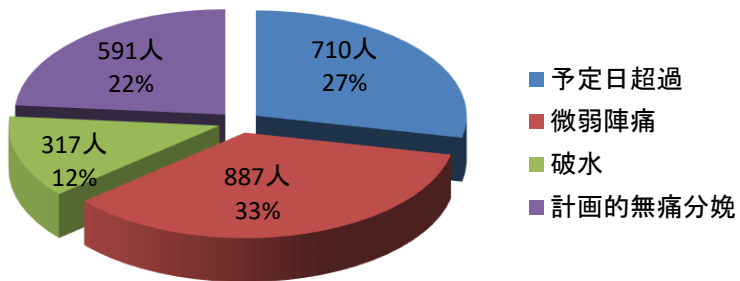
5.VBAC(帝王切開後の経膈分娩)

前回帝王切開で出産されていても、手術となった理由やその後の経過、また今回の妊娠の状況によっては経膈分娩が可能な場合があります。詳細は担当医にご確認ください。

当院では前回帝王切開で出産された方が448名おられ、その内**105名(24%)**の方がVBACをご希望になりました。しかし、ご希望通りに経膈分娩をされた方が**68名(65%)**で、残りの**37名(35%)**の方は帝王切開での出産となりました。

これらの方で異常のために帝王切開となった方は1名もおられませんでした。現在は、以前に当院で帝王切開を実施した経膈分娩の経験のある患者様のみに限定させて頂いております。ご了承くださいませ。

⑥促進分娩の理由(2660例)



6.陣痛促進の現状について

当院では、原則的に自然陣痛を待ってお産をしていただいております。しかし必要があれば、母児の安全のためには陣痛促進を必要とする場合がございます。これまで、**2660名(経膈分娩の内40%)**に陣痛促進を行っております。その内訳は、陣痛が始まっているも微弱なためにお産が進行しない場合が**887名(33%)**と最も多く、次いで分娩予定日を過ぎても陣痛が始まらず、出産が妊娠42週を超える可能性がある場合が**710名(27%)**、破水後にもかかわらず陣痛がおこらない場合が**317名(12%)**となっております。

その他、計画的無痛分娩での陣痛促進を**591例(22%)**に行いました。以前と比較して、無痛分娩の為に陣痛促進が増加しております。一部には必要性が重複した例もございましたが、主な理由にかぎり報告させていただきます。

7.無痛分娩について

当院ではこれまでに無痛分娩**1112例**の実績がございます。この際行う硬膜外麻酔は帝王切開時にも基本的には全例に行っており、**985例**の実績となっておりますが、幸いにも麻酔に伴う副作用は発生しておりません。このような経験を踏まえ、2011年より陣痛が始まる前に入院して頂き、麻酔や陣痛促進の準備をした上で出産をしていただく**計画無痛分娩**に取り組んでいます。この計画無痛分娩の開始以来**1023例**の方が出産されました。当初は分娩総数の**7%**に過ぎませんでした。2021年度は**163例(49%)**、2022年度は**173例(59%)**となっています。2019年より、自然陣痛の発来を待って無痛分娩を行う**待機無痛分娩**も始めました。2022年度待機無痛をご希望された方は**15名(無痛分娩中9%)**でした。また陣痛開始後に急遽ご希望により無痛分娩を行った**緊急無痛分娩**も2022年度**3名(無痛分娩中2%)**おられました。計画無痛分娩では分娩促進の前日に入院して翌日に分娩誘発を行っています。しかし2020年では入院後、分娩誘発に2日以上かかった方が初産婦さんで**14名(28%)**、経産婦さんで**3名(8%)**おられました。その内初産婦さんの半数が一時退院となり、入院期間が長くなる方がおられました。そこで2021年度から初産婦さんが入院する時期を以前の38～39週から40週以降に遅らせたました。2022年度は初産婦さんで分娩誘発に2日以上かかった方は**7名(9%)**、一時退院となった方は**2名(3%)**と2020年度より減少しスムーズに分娩に至る方が増加しました。陣痛や破水で予定より前に入院となった方が全体で**36%**、初産婦さんで**56%**、経産婦さんで**28%**おられ、初産婦さん経産婦さんとも3名ずつの方が無痛分娩を行うことが出来ませんでした。待機無痛分娩でも初産婦さん2名が分娩経過が早く無痛を行うことが出来ませんでした。

無痛分娩では麻酔効果の為、陣痛やいきみ感が分かりにくくなったり力が入りにくくなったりすることがあります。また陣痛そのものもと微弱となることがあります。これらのことから分娩が遷延(子宮口全開大より初産婦さんで2～3時間以上、経産婦さんで1～2時間以上かかること)したり30分以上進行せず吸引分娩を必要とすることがあります。2022年度は無痛分娩全体のうち**34%**が吸引分娩となりました。吸引分娩率は初産婦さんで**61%**、経産婦さんでは**14%**でした。当院で無痛ではない場合の吸引分娩率は初産婦さんでは**25%**、経産婦さんで**0%**でした。このように無痛を行うことで、吸引分娩が増加するということがご了承ください。

今後も入院時期、麻酔量の調整や子宮頸管拡張法の工夫などにより、デメリットを減らしていきたいと思えます。

無痛分娩を行う上で最も重要なことは安全であるということです。当院は**JALA(無痛分娩関係学会・団体連絡協議会)**にいち早く登録し情報開示に努めています。昨年より**アキュロ**という硬膜外麻酔を行う部分を超音波で確認する装置を導入しました。

無痛分娩を安全に行うための指針を掲載しておりますので、別途ご覧くださいますようお願い申し上げます。また、無痛分娩がよりご満足いただけるものとなるように、**本年よりバースレビュー**という患者様とスタッフによる分娩の振り返りを行っています。

これらの結果についても随時皆様にご報告してまいります。当院では今後も皆様のご要望にお応えできるよう、お産の一つの選択肢と捉え、これからも取り組んでゆきたいと考えております。詳細はホームページにも掲載されておりますのでご覧くださいますようお願い申し上げます。

R4年度の総括

R4年度の分娩総数は**335件**でした。

初産婦さん**154件(46%)**、経産婦さん**181件(54%)**でした。リピーターさん**83件(総数の25%、経産婦の49%)**でした。

分娩様式としては、帝王切開**41件(12%)**、吸引分娩**70件(21%)**でした。

帝王切開の理由としては、前回帝王切開**14件(37%)**、骨盤位**9件(22%)**、胎児機能不全**5件(12%)**、
児頭骨盤不適合**9件(22%)**、その他筋腫合併等**3件(7%)**でした。

吸引分娩の理由としては、胎児機能不全**30件(43%)**、児頭下降不良**15件(21%)**、腹圧不全**25件(36%)**でした。

吸引分娩自体の割合は前年と同様ですが、無痛分娩の増加に伴い、吸引分娩が増加する傾向にあります。

詳細は無痛分娩の項をご参照ください。

